

各委員から提出された事前意見と、その反映結果について

※委員名簿順

○齋藤委員

ページ	ご意見等	結 果
10	数値目標 1 (20～29 歳人口に対する市外への転出超過の割合) 2070 年に転出超過を解消というのは消極的すぎないか。10～20 年後の解消を目標に設定してはいいかがか。	・2018 年から 2023 年の転出超過割合の平均は 2.32%であり、2029 年までに 0.3 ポイントの上昇は、現状を鑑みると相当の改善と考えていることから、原案通りとさせていただきたい。
14	大学等進学率(短大、専修学校等を含む) 目標値を単に増加とするのではなく、全国平均や全道平均を上回る数値を目標とすべきではないか。 (目標値を「増加」「減少」としている他の K P I についても同様)	・目標値を「増加」「減少」としている K P I のうち数値化が可能なものについて、資料 5第 3 期函館市活性化総合戦略(素案)に係る修正比較⑩のとおり修正。 ・全国・全道と同一の統計データに基づかないものについては比較することが適切ではないと考えることから原案通りとさせていただきたい。 ・「大学等進学率(専修学校等含む)」および「合計特殊出生率」については、全国・全道の現状値を参考として表記する。資料 5第 3 期函館市活性化総合戦略(素案)に係る修正比較④、⑦のとおり修正。
22	国際線の運航便数 週 12 便は少なすぎるのではないか。コロナ禍前の実績と国際線ターミナルを拡張したことを考慮すると、現状の倍増以上としても良いのではないか。	・コロナ禍前は台湾便が週 12 便運航していたが、現在は 8 便となっている。 ・さらなる増便については、国際線ターミナル拡張工事の実施時期の見通しが立たないことのほか、燃油問題やグランドハンドリングスタッフの確保などの課題があることから、まずはコロナ禍前の運航便数を目標とし、各種対策に取り組む中で検討してまいりたい。

○岡崎委員

ページ	ご意見等	結果
4	1 第2期総合戦略の評価について 「出生率」と「合計特殊出生率」は異なる指標として別個に存在する。この文章では、「出生率」を本来の独立した意味で使用しているのか、合計特殊出生率の略語として使用しているのかが判然としないことから、「出生率」を削除し、一貫して「合計特殊出生率」を主語とした方が誤解を招かないものと思う。	・資料5 第3期函館市活性化総合戦略(素案)に係る修正比較②のとおり修正。
21	繁忙期と閑散期の入込客数の標準化指数 算出方法が分かりにくいと思うので、「繁忙期と閑散期の入込客数の平準化指数(閑散期/繁忙期)」と加筆してはどうか。	・資料5 第3期函館市活性化総合戦略(素案)に係る修正比較⑨のとおり修正。

○田村委員

ページ	ご意見等	結果
2	3 (1) ジェンダーギャップの解消 2行目に 20～29 歳の女性に市外転出超過が大きく、と記載があるが、P6 を見ると男性も女性同様に落ち込んでいる。同3行目以降、若い女性かと区切っているのはなぜか。 また、上記に加え、若い女性が本市を離れる要因を分析し、とあるが、P8 の学生向けアンケート結果では概ね3項目に集中している(買い物・移動不便、魅力的職場なし、娯楽なし)。この要因に大して差は出ないと思われるが、逆にどうしたら住みたいのかというアンケートを取ってみても良いのではないか。	・資料5 第3期函館市活性化総合戦略(素案)に係る修正比較①のとおり修正。 ・20～29歳では男女ともに転出超過が大きい、近年、特に女性の転出超過傾向が拡大していることの説明が不足していたことから、その点についての説明を追加したい。 ・アンケートについては、今後の検討課題とさせていただく。

○相庭委員

ページ	ご意見等	結果
2	3 (1) ジェンダーギャップの解消 若い女性 (20 歳～29 歳) が函館を離れる要因を分析するとあるが、若い男性も同様に函館を離れているので、男女の違いによる格差があるというよりも「若者に好かれるまちづくり」が必要かと思う。 単純に、遊べる場所を作るなどではなく、若者世代にとって魅力的な制度や情報をしっかり届けることが大切だと考える。	・「制度や情報をしっかり届ける」という点については、21 ページ 1 段落目でその要素を取り入れた表現としているので、ご理解いただきたい。 ・内容については参考意見とさせていただきます。
6	(4) 男女・年齢階級別純移動数 若者の進学や就職に伴う市への極端な転出超過について、若者に市外に行く動機をたずねても「地元から離れたいから」、「都会の方がいいから」などと言われそうだが、例えば一流のプロや著名人を講師に招いた授業が受けられる高校や大学があるなど、他の地域から羨ましがられるような取組を起爆剤に、今ある函館の良さや魅力を若者世代にしっかり伝え、だからあなたたちにも地元を守ってもらいたいんだという思いを発信し続けることが重要なのではないか。	・若い世代に、地域への愛着を持ってもらう取組については、14 ページ 1 段落目でその要素を取り入れた表現としているので、ご理解いただきたい。 ・具体の取組については、今後、検討を行う中での参考意見とさせていただきます。
8	4 市民アンケート等の結果から 娯楽・レジャーが楽しめないと半数ほどの回答があるが、残りの半数の中に、娯楽・レジャーを楽しんでいる若者がいるかもしれず、その子たちに函館の楽しみ方をレクチャーしてもらうなど見方を変えれば新しい発見があるかもしれないと思う。 函館にいる大人が楽しそうなのか、自分たちの親世代が幸せそうなのか、そんなところを若者は見ているのかもしれない。 また、魅力的な職場が無いと回答した若者も多いが、そもそも函館の企業が魅力的だということをどのくらいアピールしているのか、若者にしっかり届いているのか見直す必要があるのではないか。	・今後、具体の取組を検討する中での参考意見とさせていただきます。

ページ	ご意見等	結果
12	③子育てしながら働きやすい環境整備 様々な事業に取り組んでいただいているが、現実問題、子育て中は子どもの送迎だけでも大変だったりする。自分も幼稚園の迎えが遅くなり、息子がポツンと待っていた思い出もあり、例えば近隣企業が連携してエリア内の託児所が充実するとか移動販売ならぬ移動保育とか、そんな夢のような話があれば良いと思う。	・以前の会議でのご意見も踏まえ、子育てに関する関連情報発信の強化という観点から、12 ページ「②切れ目のない子育て支援」を、資料5 第3期函館市活性化総合戦略(素案)に係る修正比較⑤のとおり修正。 ・市としてどのような取組が可能か、今後、具体的取組を検討する中での参考意見とさせていただく。
13	④子どもたちを取り巻く社会問題への対応 虐待やいじめは、無くならないと感じている。SOSを発信できる環境やメンタルだと良いが、難しい場合の方が多い気がする。 例えば学校や職場に健康チェックを目的にしたロボットを設置し、脈拍や心拍数に異常を検知した場合に然るべき人へデータが報告されるシステムで見守りを開始して、連続して数値が異常だった場合は専門家によるサポートがあるなど、周りには知られず、SOSのサインを見逃さない方法も考えられれば良いと思う。	・今後、具体的取組を検討する中での参考意見とさせていただく。